

◎ノボリンN注フレックスペン [注]

【重要度】★ 【一般製剤名】インスリンヒト（遺伝子組換え） insulin human (genetical recombination) 【分類】インスリン製剤 [持続型]

【単位】◎300 単位/本 [100 単位/mL]

【常用量】■初期量 4～20 単位■維持量 1 日 4～80 単位

【用法】朝食前 30 分以内に皮下注 [一定の時間に注射]

【透析患者への投与方法】血糖値に応じて投与 (1)

【その他の報告】50%に減量 (10,17)

【PD】50%に減量 (17) PD 患者にバッグ内投与されたインスリンはバッグやチューブなどに 14%吸着する。腹膜からの吸収は 17～66% (平均 38%) と個人差が大きい (Fine A, et al: Perit Dial Int 20: 652-5, 2000)

【CRRT】75%に減量 (17)

【保存期 CKD 患者への投与方法】血糖値に応じて投与 (1)

【その他の報告】Ccr>50mL/min : 減量の必要なし, Ccr10～50mL/min : 75%に減量, Ccr<10mL/min :50%に減量 (3,10,17)

【特徴】インスリンの作用を持続させるために硫酸プロタミンと結合させた NPH 系製剤。

【主な副作用・毒性】低血糖、蕁麻疹、悪心、嘔吐、下痢、喘鳴、インスリン浮腫、血管神経性浮腫、脂肪組織肥厚、アナフィラキシーショック、横紋筋融解症

【モニターすべき項目】血糖値、体重測定、尿糖、尿中ケトン体、HbA1c、血清 pH、血清リン値

【tmax】2hr (1)

【代謝】吸収される前に皮下の酵素によりプロタミンとインスリンに解離する。インスリンは肝及び腎で代謝される (U)

【排泄】尿中未変化体排泄率 5%以下 (10) 5% (14) 腎から 30～80%が排泄され、未変化体のインスリンは再吸収される (U) 【CL】167～667mL/min (10) 【非腎 CL/総 CL】40% (10)

【蛋白結合率】5% (10) 5%以下 (11)

【Vd】0.6L/kg (14) 【分布】ほとんどの細胞内に分布 (U)

【MW】5807.57

【透析性】資料なし (1) 分子量がやや大きいため除去率は低いと思われる (5) ある種の合成高分子膜には付着により血中濃度が低下する可能性がある (5)

【効果発現時間】1～3hr 【最大効果発現時間】6～12hr

【効果持続時間】18～28hr

【更新日】20180530

※正確な情報を掲載するように努力していますが、その正確性、完全性、適切性についていかなる責任も負わず、いかなる保証もいたしません。本サイトは自己の責任で閲覧・利用することとし、それらを利用した結果、直接または間接的に生じた一切の問題について、当院でいかなる責任も負わないものとします。最新の情報については各薬剤の添付文書やインタビューフォーム等でご確認ください。

※本サイトに掲載の記事・写真などの無断転載・配信を禁じます。すべての内容は、日本国著作権法並びに国際条約により保護されています。